

岡山県総合文化センターニュース

道しるべ

賀陽町湯山口の道標



伯耆大山を中心に四方に発達した大山道。中でも岡山市足守と大山横手道を結ぶルートは、大山道の本道ともいえるものであった。

大山道と、^{まきたに}榎谷（現・総社市）を經由して総社方面へと向かう道との分岐点に、高さ約55センチ（台石を除くと約35センチ）の小さな戴冠神像の道標が立っている。神像の向かって右側には「まきたに道」、左側には「あしもり道」と刻まれている。

大山は『出雲風土記』に「伯耆の国の大神岳」と記される等、古くから信仰を集めた山である。大山信仰の中心は地蔵信仰で、本尊の地蔵菩薩は特に農業神・牛馬守護神として有名であった。近世以降中国地方各地で奥参りと呼ばれる大山参りの風習が広まった。牛馬を伴っての参詣が盛んで、昭和12年までは大山境内博労座（牛馬市）も開かれていた。

【参考図書】

- ・『岡山県歴史の道調査報告書 大山道』（岡山県歴史の道調査報告書第八集）岡山県教育委員会 / 編集・発行 1994年
- ・『岡山県の地名』平凡社地方資料センター / 編 平凡社 1988年
- ・『鳥取県の地名』平凡社地方資料センター / 編 平凡社 1992年
- ・『賀陽町の石造文化財』賀陽町教育委員会 / 編 1991年

*** 岡山県総合文化センター企画美術展の紹介 ***

アートウェーブ岡山・巡回展<笠岡>

展覧会名 「現代作家の眼」アートウェーブ岡山・巡回展<笠岡>

平面・10人の現在 2003

会 期 11月19日(水)～11月30日(日)
(午前10時から午後5時まで)

会 場 ワコームミュージアム(笠岡市五番町6-20笠岡グランドホテル内)

主 催 岡山県、「現代作家の眼」展実行委員会、
岡山県総合文化センター、おかやま県民文化祭実行委員会

共 催 岡山県総合文化センター文化振興会

後 援 財団法人 ワコースポーツ・文化振興財団

入 場 料 無料

このアートウェーブ岡山・巡回展は、県内で活躍中の美術作家によるジャンル別の選抜展を、県内の美術展示施設を巡回して開催するものです。

第7回目となる今回は、「平面・10人の現在(いま)」というテーマで、独自の表現スタイルを持つ美術作家10名が、日本画、洋画、書、写真などの平面作品を出品しています。

現在、多彩な広がりを見せている美術の表現のなかで、平面作品で新たな境地を展開させている作家も少なくありません。

今までに見られなかったような表現の技法や素材、あるいはスタイルやコンセプトでその可能性を広げています。

平面表現の多様性を示す10人の作家の力作が並ぶ本展で、時代を反映した豊かな感性にふれていただきたいと思います。

なお、笠岡会場終了後、勝央町と高梁市に巡回展示します。



花房徳夫「Flower」



岩本鶴翠「叫 ほえる」

<勝央会場>

会 期 平成15年12月3日(水)～12月21日(日)

会 場 勝央美術文学館(勝田郡勝央町勝間田207-4)
10時～18時、月曜日は休館

主 催 勝央町、勝央町教育委員会、勝央美術文学館

入場無料

<高梁会場>

会 期 平成16年1月10日(土)～1月25日(日)

会 場 高梁市歴史美術館(高梁市原田北町1203-1文化交流館2階)
9時～17時、火曜日は休館

主 催 高梁市、高梁市教育委員会、高梁市歴史美術館

入場無料

おokayama人物往来 ⑦⑥

池田利隆

(輝直、玄隆)



池田 利隆
(林原美術館蔵)

池田利隆は天正12年(1854)池田輝政の長男として岐阜に生まれた。母は摂津茨木城主中川清秀の娘であるが、利隆を産んだ後、体調が戻らなかったため中川家に帰っている。文禄3年(1594)父輝政は徳川家康の娘である督姫を継室に迎え、忠継、忠雄、輝澄、政綱、輝興をもうけている。

慶長5年(1600)上杉景勝征伐に従軍していた輝政、利隆親子は石田三成の叛逆の報に接し、東軍の先手として織田秀信の守る岐阜城を攻める。福島正則との先陣争いは有名な話である。関ヶ原の戦いにも参加した輝政は播磨国姫路城主として52万石を領有することになる。慶長8年(1603)利隆の弟忠継が備前国を与えられるが、まだ幼少のために利隆が備前国の国政を執った。しかし『池田家履歴略記』によれば利隆は父輝政(姫路城主)の指示を受けていたようである。

慶長10年(1605)利隆は榊原康政の娘で徳川秀忠の養女を正室に迎え、慶長12年(1607)には松平の称号を与えられた。利隆は松平武蔵守と名乗った。慶長14年(1609)備前国岡山城で利隆の嫡子光政が誕生。慶長16年(1611)には光政の弟池田恒元も岡山城で生まれている。

利隆は父輝政が亡くなる慶長18年(1613)まで備前国を治めた。輝政の死後、まもなくして幕府は安藤対馬守重信、村越茂助直吉を播磨国の利隆の許へ派遣して政務を監査した。このことによって若原右京、中村主殿が処分された。利隆は播磨国(宍粟、佐用、赤穂三郡を除く)12万石を相続し、弟

忠継は備前国と播磨国三郡を領有することになった。池田家臣団も再編成され、池田内記、池田出羽、伊木長門、日置豊前などは利隆に従い、荒尾志摩守、荒尾但馬、和田孝岐守らは忠継に付いた。

慶長19年(1614)9月、利隆は江戸城修築を行っていたが、大阪冬の陣のために急いで姫路に帰国、同年10月出陣し西宮に進んでいる。この時池田出羽、伊木長門は江戸に留め置かれた。同年11月豊臣秀頼から大坂方に味方するように誘われるが、秀頼からの書翰を京都所司代板倉勝重に差し出している。同年12月1日利隆は天満橋方面から攻撃し、戦果をあげている。

元和元年(1615)2月父輝政の継室であった良正院(督姫)と弟忠継が相次いで死去。そこで世にいう毒饅頭事件のうわさを生み出すことになる。

同年4月、利隆は大坂夏の陣のために2万の兵力で兵庫へ出陣する。今度は池田出羽、伊木長門も出陣を許されるが池田出羽は江戸と伏見に、伊木長門は江戸へ自分の子を入質として残した。池田出羽は父、之助を小牧長久手の戦いで失い、伊木長門の伊木家は元來織田信長の家臣で、豊臣秀吉との関係も浅からずということで警戒されたようである。利隆自身も夫人と二男恒元を入質として江戸に下向させた。利隆の軍勢は天満船場方面を攻撃し、多くの首級をあげている。

元和2年(1616)利隆は江戸にいたが体調をくずし、保養のために京に赴いた。しかし京の京極高知邸において33歳の生涯を閉じた。

【参考文献】

- 「池田家履歴略記上巻」(日本文教出版 S38)
- 「大日本史料第12編之16~18」(東京大学史料編纂所 S48覆刻)
- 「大日本史料第12編之25」(東京大学史料編纂所 S49覆刻)
- 「吉備群書集成第4輯所収埋禮水」(吉備群書集成刊行会 S6)
- 「岡山県史第6巻近世」(岡山県 S59)
- 「寛政重修諸家譜第五」(続群書類従完成会 S39)

当館の参考図書 ⑬⑩

『漫画家人名事典』

2003年2月 日外アソシエーツ

世界に通用する日本文化の一つである漫画。しかし、そんな漫画に関してまとまった情報を得ようとすると意外に記録されているものが少ない事に気づきます。

一口に漫画家と言ってもその定義は大変に難しいようですが、この本では自著やインタビュー等で漫画家を自称し、かつ商業誌に作品を発表した人が主に紹介されています。例えば岡山県出身の一条ゆかりさんは出身地などのほかに高校2年の

時にデビューした事、1986年に第10回講談社漫画賞を受賞した事などが紹介されています。また巻末には付録として「漫画賞受賞者一覧」「出版者連絡先一覧」「漫画雑誌一覧」が記載されており、漫画についてより詳しく知るのに役立ちます。



本書はデータの補足や未掲載作家に関する情報を電子メールなどで随時募集しており、その連絡先も記載されています。漫画に詳しい方は連絡して漫画文化の記録に一役かかってはいかがでしょうか？

新着郷土資料紹介

本・子ども・人をむすぶ 学校図書館から地域へ、地域から学校図書館へ 新世紀子ども読書年・おかやま著 新日本出版社発行 2003 190\$-

おかやま365日 岡山県広報協会編、発行 2003 274\$-

岡山発GOGO!グッドライフ 2003年度版元気がいちばん!55歳からのイキイキ生活ハンドブック 岡山放送発行 2003 96\$-

在田軒道貞(吉岡信元)著作全集 にいやま「文化を楽しみ育てる会」五周年記念出版 在田軒道貞著 にいやま「文化を楽しみ育てる会」発行 2003 170\$-

こうもり塚と江崎古墳 吉備考古ライブラリー9 藤田憲司著 吉備人出版発行 2003 162\$-

吾は語り継ぐ 2000人の証言 岡山空襲資料セ

ンター編集、発行 2003 178\$-

吉備の国岡山ゆかりの女性たち 谷淵陽一著 平和納庫発行 2003 190\$-

67歳前社長のビジネス留学 赤井克己著、発行 2003 145\$-

岡山孤児院の運営体制と養護実践の構造に関する研究 日本の社会福祉形成と岡山孤児院の役割と意義 菊池義昭研究代表、発行 2003 1冊

おもちゃと遊びのリアル 「おもちゃ王国」の現象学 松田恵示著 世界思想社発行 2003 218\$-

アール・デコの建築家業師寺主計 上田恭嗣著 山陽新聞社発行 2003 178\$-

岡山県野生生物目録 岡山県生活環境部自然環境課製作 岡山県環境保全事業団 2003 397\$-

民家は甦る 岡山「古民家再生工房」の軌跡 建築思潮研究所編 建築資料研究社発行 2003 191\$-

新着外国語資料紹介

Virginia Lee Burton : a life in art

絵本の舞台 (by Barbara Elleman / Houghton Mifflin / 2002)

ひなぎくの咲く丘の上で、流れる時を見つめる小さな家が主人公の絵本。黒一色の機関車が画面を疾走するダイナミックな絵本。雪に埋もれた町を救う赤い除雪車けいていの絵本。今も世界中で読み継がれている絵本の名作を生み出したバージニア・リー・バートンの一生を描いた一冊である。彼女は絵本作りだけでなく、地元の人たちにデザインを教え、工芸グループを主宰し、家庭では二人の息子の母として、彫刻家の夫を持つ妻として、ダンス好きな主婦として、その才能を發揮した。そうした生活の全てが絵本の中に活かされていた事を教えてくれる。

芸術のルーツ

Caravan to America : living arts of the Silk Road

(by John S. Major and Betty J. Belanus / Cricket Books / 2002)

古代のシルクロードが、東西を結ぶ貿易路としてのみならず、文化の伝達路であった事はよく知られている。現代のアメリカで、自分たちの国々の文化・芸術を守り伝えている8名の芸術家たち(京劇のスター、アジアの伝統的な格闘技の専門家、曼荼羅を描く僧、トルコ絨毯の修復家、イラ



ン料理研究家、オアシス都市ブハラの歌姫、アルメニア語のカリグファー、ギリシア伝統楽器の製作者)を紹介した本である。シルクロードの終着地はアメリカと言えるかも知れない。

メジャーリーグ

May the best team win: baseball economics and public policy

(by Andrew Zimbalist / Brookings Institution Pre. / 2003)

アメリカのプロスポーツリーグの中でもメジャーリーグ・ベースボールはナショナルパスタム=国民的娯楽と呼ばれる。その魅力の一端を日本人選手たちの活躍で身近に知る事ができるようになった。しかし、ゲームの面白さとは対照的に、選手と球団との緊張関係、高収益を上げるための競争、入場券の高騰など多くの問題を抱える独占的事業でもあるという。本書は、組織経営の面からメジャーリーグを分析し、リーグの再生方法を提案している。‘最良のチームが勝利するように’という願いを込めて。

随想

「お化けはきつといる？」

岡山県立博物館 学芸員 木下 浩



岡山県立博物館平成15年度特別展「他界への招待 ～お化けはきつといる・あの世はきつとある」が8月1日(金)～31日(日)まで開催された。このサブタイトル、私自身はとて気に入り

るので、それでは本当にタイトル通りお化けはきつといるのであろうか。

勿論、担当者としてはお化けがいるつもりで展覧会を企画した。しかし、それが展示に本当に示されたかという、いささか自信はない。担当者が今更何を言うのかとお叱りを受けそうだが、調査・展示をしたときは、「お化けなんか絶対にいない」派の筆頭ではないかと自問自答したことも1回や2回ではない。無事展覧会を終えて一息ついた今、もう一度お化けについて私自身よく考えてみたいと思う。

よく幽霊や妖怪を論じるときに、「見たことがないから信じない」と言う人がいる。もし自分の目で見たまものしか信じないと言う人がいるとすると、その人の社会は余りにも狭いものになる。なぜなら私たちは、先人の努力によって見たことがなくても徳川家康が江戸幕府を開いたことを知り、直接見たわけではないテレビの映像によって月の表面の様子を知り、インフルエンザが目に見えないウィルスによって引き起こされることを知っている。見えないからと言ってそれらを疑うことはできない。また、視覚・視力というものは個人個人で違いがあるもので、同じものを見ていてもそれぞれに違って見えるのは当たり前である。それだけ「見る」ということはあやふやなものであって、それが全ての基準とはなり得ないと思われる。

ところで、ほぼ県内全域に広がるゴンゴ(河

童)伝承、ゴンゴと相撲をとった話やゴンゴから薬を伝えられた話などが残るなか、子どもがおぼれさせられて尻子玉を抜かれる話や馬を淵に引きずり込む話も残されている。また、同じく瀬戸町や津山市などに残されている小豆とぎ(小豆洗い)の伝承、その中に子どもが夜その場所に行くと小豆の中に入れられて死んでしまうといった話が伝えられている。よく河童は水の神様の末裔と考えられていることが多いが、実際にゴンゴの話を伝える人たちが「ゴンゴは元は水の神様であって…」などと語ることはない。むしろ夜のこの淵は危険だから近づかない方がいいといった警告の代弁者として、ゴンゴや小豆とぎが存在したと思われる。

今回の展覧会で初公開の文化11年に美作町田殿に落ちた雷獣の図。激しい夕立の後、見つかったというそれは、イタチではなく雷獣であった。その後どうなったかは不明だが、それはあくまで彼らにとって見慣れたイタチではなく雷獣であった。

危険の警告者としてのゴンゴや小豆とぎ。見慣れているはずのイタチではなく雷獣。そこから考えられるのは、当時の人々にとってお化けが生物学上どの分野に分類できるかといったものではなく、必要なときに勝手に登場させ、イタチでも雷獣に見えたときには雷獣と解釈する曖昧さを持った存在であったと思われる。世の中に「必要悪」というものがあるのなら、お化けはせいぜい「必要存在」、本当はいないかもしれないが、でもやっぱり必要なもの、とでも言えるのではないだろうか。

お化けはきつといるのかという問いに対して答えを出すことはできなかった。しかし生物学的に存在するしないは別として、当時の人々にとっては必要な存在であった。だとすればいるいないの議論は置いておいて、必要なものであったということ許していただければと思う。

クロスオーバー10展2003を終えて

中四国と兵庫県の10県に在住の美術作家11人が出品した、現代美術展「クロスオーバー10展2003」が当館第一展示室で開催されました。

20代を中心とした若手による、平面、立体、インスタレーション、映像作品など、多彩な力作が並んだ会場には約1300名の熱心な鑑賞者が訪れ、盛況の内に終えることができました。ありがとうございました。



ギャラリー

期間 (週)	第一 展 示 室		第二 展 示 室	
	大 室	小 室	大 室	小 室
12 / 2 12 / 7	第34回 莞歌社岡山支部書道展 書80点 <莞歌社岡山支部> 入場無料		第57回 水墨画虎杖会展 水墨画100点 <水墨画虎杖会> 入場無料	
12 / 9 12 / 14	ハート・アート・おかやま2003 絵画30点・書30点・立体20点・工芸20点・写真(含映像)20点 <ハート・アート・おかやま> 入場無料		西部謙慎書道展 書 <西部謙慎書道会> 入場無料	
12 / 16 12 / 21	改組第2回(通算第16回)国際架橋書展(巡回展) 書200点 <特定非営利活動法人国際架橋書会> 入場無料		第10回 生徒作品・表現活動発表会 美術・工芸・デザイン・写真・青写・社会・放送等約1000点 <岡山市中学校文化連盟> 入場無料	
12 / 23 1 / 4	年末・年始休館			
1 / 6 1 / 11	第36回 春秋会書道展 書約70点 <春秋会> 入場無料		彩雲会書道展 書80点 <彩雲書道会> 入場無料	
1 / 13 1 / 18	第4回 日洋会瀬戸内支部展岡山会場 油絵57点 <日洋会瀬戸内支部> 500円、学生300円、小中学生・65歳以上・会員無料		女子美展 油絵・日本画等50点 <女子美術大学同窓会岡山県支部> 入場無料	
1 / 20 1 / 25	第6回 国画会岡山作家展 絵画18点・工芸30点 <国画会岡山グループ> 入場無料		岡山水彩作家展 水彩画30点 <岡山水彩作家会> 入場無料	
1 / 27 2 / 1	岡山市水墨画連盟展 水墨画150~180点 <岡山市水墨画連盟> 入場無料		第20回 岡山県工業高校デザイン展 県立工業高校デザイン系学科の生徒作品 <岡山県高校工業教育協会> 入場無料	
企 画 巡回展	「現代作家の眼」アートウェブ岡山・巡回展 内 容：平面 会 場：勝央美術文学館(岡山県勝田郡勝央町勝間田207-4) 高梁市歴史美術館(岡山県高梁市原田北町1203-1) 会 期：勝央美術文学館...平成15年12月3日(水)~12月21日(日) 月曜日休館 高梁市歴史美術館...平成16年1月10日(土)~1月25日(日) 火曜日休館 入 場 料：無料 <「現代作家の眼」展実行委員会(岡山県総合文化センター内)>			

ギャラリーの開場時間は通常9時から17時です。
団体の都合により、展覧会名称・入場料等が変更されることもありますので、事前にご確認願います。
会員・・・文化センター友の会及び文化振興会会員

ホール(固定席282席)

日(曜)	催 物	時 間	料 金	主 催 者
12 / 6 (土) ・ 7 (日)	演劇公演「インディアン伝説 アニヒュティ」	6日 18:30~20:00 7日 14:00~15:30	1,000円	演劇塾 ジャーム
12 / 13 (土)	ジョイントライブ	13:00~16:00	300円	ノートルダム清心女子大学 軽音楽部パピルス・岡 山大学軽音楽部ロック
12 / 20 (土) ・ 21 (日)	中学生生徒作品表現活動発表会	未 定	無 料	岡山県・岡山市 中学校文化連盟
12 / 23 (火)	ピアノ・エレクトーン発表会	未 定	無 料	笠原 P - E 教室
12 / 27 (土)	演劇上演(定期公演-クリスマス公演-)	未 定	無 料	関西高校演劇部
1 / 11 (日)	第25回岡山人形劇フェスティバル	未 定	小学生以上：300円 小学生未満：100円	ノートルダム清心女子大学児童文化部 就実女子短期大学児童文化部 山陽学園短期大学児童文化部 中国短期大学児童文化研究部
1 / 24 (土) ・ 25 (日)	劇団らくだのくるぶし第15回公演 「砂漠の葬列」	24日 19:00~20:30 25日 14:00~15:30	当1,300円 前1,000円	劇団らくだのくるぶし
1 / 31 (土)	ピアノ発表会	未 定	無 料	椎 の 実 会

ホールは、固定席282席です。
主催団体の都合で、中止・変更等の場合もありますので、事前に御確認願います。
会員・・・文化センター友の会及び文化振興会会員

催し物案内と文化センターニュースはホームページでもご覧になれます。(http://www.libnet.pref.okayama.jp)